

資料3

持続可能なアジアに向けた大学における理職人材育成ビジョン第3回検討会

# 地域コミュニティにおける ESDの取り組み NPOの役割と可能性

NPO法人えひめグローバルネットワーク  
竹内 よし子

## プレゼンの内容・目次

2

1. えひめグローバルネットワーク団体概要説明
2. 四国NGOネットワーク・JICA四国・4県大学共催  
「四国・国際協力論」事例紹介
3. 愛媛大学現代GP  
「環境ESD指導者養成講座」事例紹介
4. NPOの役割と可能性

# モットー

3

Think Globally, Act Locally  
and Change Personally!  
地球規模で考え、地域で活動し、  
自ら変わること!

学び + 行動 発展+持続可能性を追求

## 団体の概要(参考資料参照)

4



事務所外観



事務所内



ワークショップ



教員研修

## 設立目的

5

地球規模の視点でとらえ、  
国際、平和、環境、人権、福祉など、  
さまざまな社会問題の解決・改善を図るため、  
地域密着型・市民参加型を重視した  
国際協力活動の推進と、  
国際理解・開発教育の啓発・普及、  
パートナーシップとネットワークづくりを図り、  
多文化共生・持続可能な市民社会の構築に  
寄与することを目的とする。

## ビジョン

6

あらゆる人々が、  
人として  
平和な日々をおくることができる  
持続可能な社会の実現  
を目指します。

## ミッション・活動

7

- 人として対等な立場で支援を必要とする人々の社会的・経済的自立を援助するため  
**市民参加による国際協力活動を実践**します。  
モザンビーク平和構築支援・・・現地：「コミュニティ開発・エコ&ピース」へ  
国内：「日本・モザンビーク市民友好協会」発足へ  
教育：ESD実践事例へ
- 国際協力活動を促進し、多文化共生社会を実現するため  
**グローバル教育の普及**に取り組みます。  
国際理解教育・開発教育 ESDとしての取り組み・展開
- わたしたちのビジョンを追求するため地域・国内・海外の市民や諸団体との  
**パートナーシップ・ネットワークを構築**します。  
ネットワークNGOの役割・・・外務省NGO相談員委嘱事業受託・ネットワークNGOとの連携  
四国NGOネットワーク設立・・・JICAとの連携・「四国・国際協力論」の展開  
環境省四国環境パートナーシップオフィス受託・・・環境省・環境NGOとの連携



## SNN発足の経緯

8

- 「四国NGOネットワーク」は、四国に拠点を置くNGO相互の情報交換や意見交換、市民との対話・連携などを通して、NGOの社会的・経済的活動基盤を強化する仕組みや、地球市民の育成に向けて行政・企業・学校・異分野NPOとのよりスムーズな連携を図っていく仕組みを確立し、NGOの側面的支援を行うことによって、四国全体のNGO活動のさらなる発展、市民活動全体の推進を目指して発足した。
- 経緯：  
2001年3月 JICA四国支部主催「第1回四国地区NGO - JICA国際協力ネットワーク会議」  
2002年9月 えひめグローバルネットワーク主催「四国NGOネットワーク構築会議」  
2004年3月 JICA四国支部主催「第2回四国地区NGO - JICA国際協力ネットワーク会議」  
2004年3月 四国・国際協力NGOネットワーク協議会(仮称)設立準備会発足  
2004年10月 四国NGOネットワーク設立

## 「四国・国際協力論」事業実施 Why?

9



非政府組織(NGO)が担う  
草の根レベルの活動は  
政府間や国際機関同様に  
重要かつ不可欠

市民主体による活力ある  
社会づくりのため

「国際協力活動」の必要性を  
理解してもらうために、  
NGO活動は地域で  
もっと知らされるべき

## 「四国・国際協力論」事業実施 How?

10

### 三者連携

- 市民連携を進める**JICA**
- 草の根レベルで活動を行っている四国の**NGO**
- 次世代の育成を担う高等教育機関である各県**大学**

### 講義の進め方

- ワークショップ・グループディスカッションなど参加型手法を取り入れる
- 四国地域における国際協力活動、ODAや国際組織の活動などの実態に触れる



## 「四国・国際協力論」事業実施 What for ?

11



- 地域レベルと世界レベルの**持続可能な社会**のあり方について学ぶこと
- 多面的・多角的に考え、**行動に結び付けていくこと**ができる人材の育成

## 「四国・国際協力論」【2005年4月から開始!】 事業実施体制・役割 JICA 四国側

12

### 大学との連携

- ・ JICA 四国と党書(研修生受け入れ・「四国・国際協力論」実施協力)
- ・ **5年間の覚書が期限切れになった時にどうなるか?**

### 実施協力体制の強化

- ・ 「四国・国際協力論」実施協力
- ・ **NGOとともに各大学へ挨拶回り**
- ・ **2006年度より、推進員が15コマの授業参加・報告**
- ・ **2007年度より、コメント記入・レスポンスへの回答・採点・評価**

### NGOとの連携

- ・ 四国NGOネットワークと委託契約
- ・ **講義実施の資金提供(4大学分約160万円=1大学あたり約40万円、内コーディネート料は、1大学10万円(この内30%がSNNの事務局経費となる))**
- ・ **JICAはNGOのコーディネート力を認めているか?**

「四国・国際協力論」【2005年4月から開始!】  
事業実施体制・役割 **大学側**

13

体制・仕組み	NGOにとっての メリット	NGOにとっての デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JICA四国と覚書(研修生受け入れ・「四国・国際協力論」実施協力)</li> <li>・ 一講義開設(15コマ・2単位・一般参加を含む)</li> <li>・ 一講義内容コーディネート、レスポンスへの回答・採点・評価</li> <li>・ 一大学側の独自の取り組みへ発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四国のNGOはゲストティーチャーではなく「非常勤講師」扱い</li> <li>・ 一NGOの社会的地位の向上を図るための事務手続き協力</li> <li>・ 一大学は、NGOをどの程度、認知・理解しているか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資金提供なし</li> <li>・ 一JICAが資金提供をやめたら、大学側で資金提供できるか?</li> </ul>

「四国・国際協力論」【2005年4月から開始!】  
事業実施体制・役割 **NGO側**

14

始まり～調整	連携	NGOの教育的役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「四国・国際協力論」提案</li> <li>・ 一実施企画書をJICAに提出・委託契約</li> <li>・ 一講義コーディネート(講師とのやり取りと内容)</li> <li>・ 一JICA四国と各大学へ挨拶回り</li> <li>・ 一15コマの授業参加・コメント記入・レスポンスへの回答・採点・評価</li> <li>・ 一NGOにコーディネート能力はあるか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ① NGO⇄ JICA四国の連携</li> <li>・ ② NGO⇄ 大学</li> <li>・ ③ NGO⇄ 大学生の連携</li> <li>・ 一ネットワークNGO全国会議や自治体国際化協会の会議などで経験共有</li> <li>・ 一学生のボランティア・インターン受け入れ、フィールドワーク受け入れ、スタディツアー参加受け入れアレンジ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一NGOに教育力はあるか?</li> <li>・ 一持続可能性を学ぶ機会を提供できているか?</li> <li>・ 一行動力を伴う学びを提供できているか?</li> <li>・ 一教育力を持つNGOが地域社会で正当に評価を受け、認められているか?</li> <li>・ 一メディア・企業との協力でもっと教育的発信力を高められないか?</li> </ul>

## 受講生のコメント

15

地域というエンジンが回せる歯車はとても小さいが、**回し続ければいつか世界という歯車を動かすことができる**と**確信**できるようになった。

「共に自立を目指すパートナー」という新たな視点から国際協力活動を考えることを学び、決して特定の人ができるものでもしなければならないものでなく、共に自立を目指す**同等の人間として、全ての者が自覚し行動する必要性**を感じた。

その先にあるのは**双方向な社会構造の構築**で、それには**地域発の国際協力活動こそ大きな意味を持つ**のではないかと考えるようになった。

NGOの講師の先生方は**世界のために地域で動くこと、動き出すことで生み出される力の可能性**を教えてくれた。

一人の力は確かに小さく、それを世界に届けることはとても難しいことである。しかし**ひとりの小さな力でも積み重ねれば変わる**。

## 受講生のコメント

16

スライドなどによって実際の現地の写真を見ていると**「私は本当にこのような問題を自分と同じ世界のこととして、真剣に考えてみたことが一度でもあったか」と自問**するようになっていった。

単なる**知識としての捉え方**と現実に関この瞬間に起こっている**出来事としての捉え方との違い**を初めて感じたように思う。

もし、この**講義を受けていなかったら、今でも、発展途上国に対する間違っ**た思いを持ったままだったと思う。改めて自分の無知と関心の低さに気づいたとき、今まであまり興味がなかった**「国際協力」**について非常に興味が湧くとともにこの講義を取って本当に良かったと思った。

多くのことを学んだ。特に一番の収穫であり、またもっとも重要なことだといえるのが**「国際協力は一方的な援助ではない」**ということである。

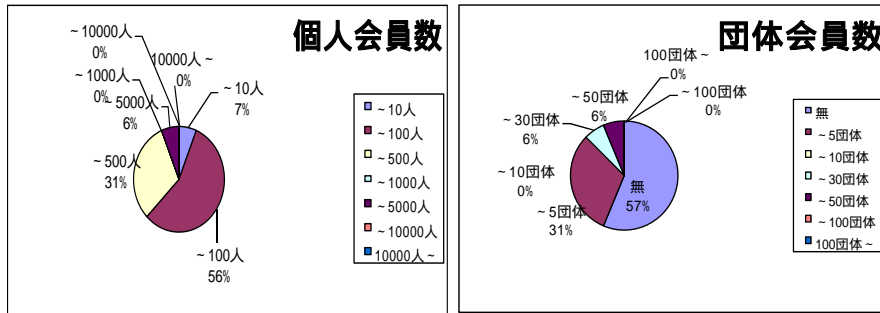
**世界の問題は自分たち自身の問題**なのであって、国際協力は共に世界を良くしていくという試みであるという認識を感じることができ、これを多くの人々に広げていけるのは、**「地域の国際協力」が秘めている可能性**だと考える。





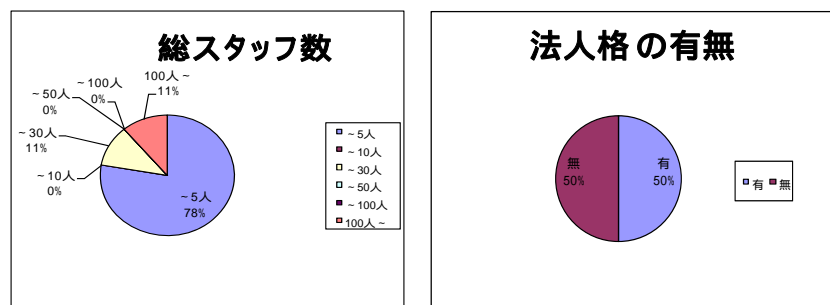
# NGOの現状1 (2006年11月～2007年2月までの調査結果)

19



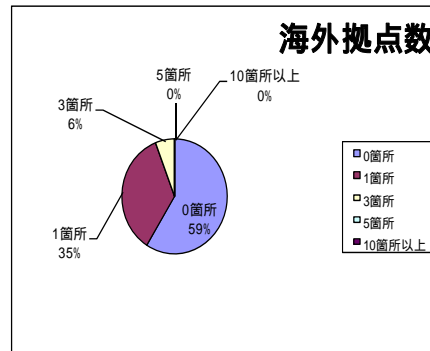
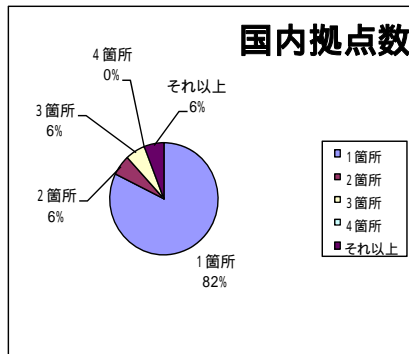
# NGOの現状2

20



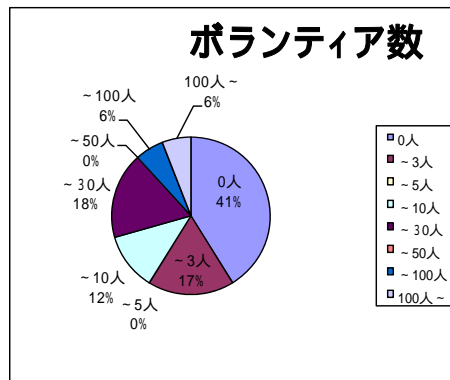
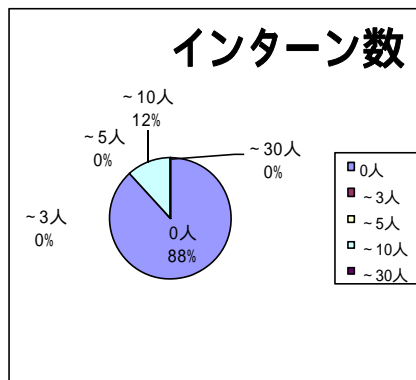
## NGOの現状3

21



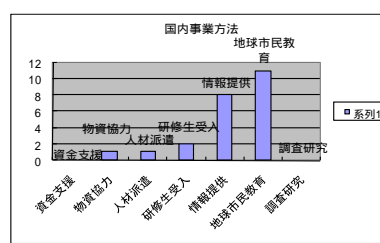
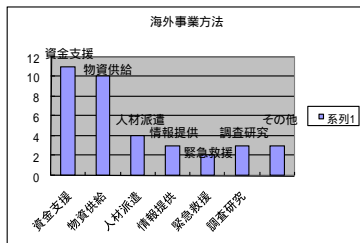
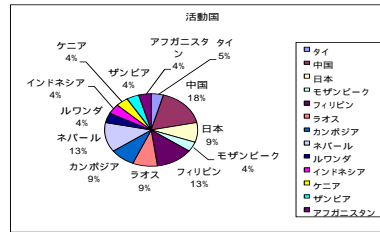
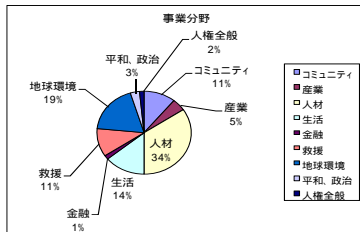
## NGOの現状4

22



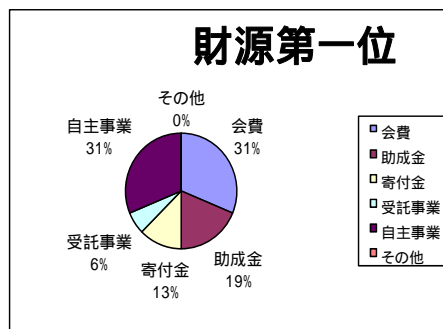
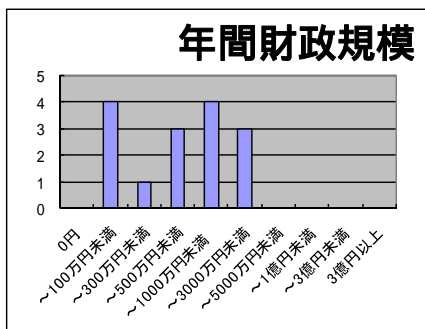
# NGOの現状5

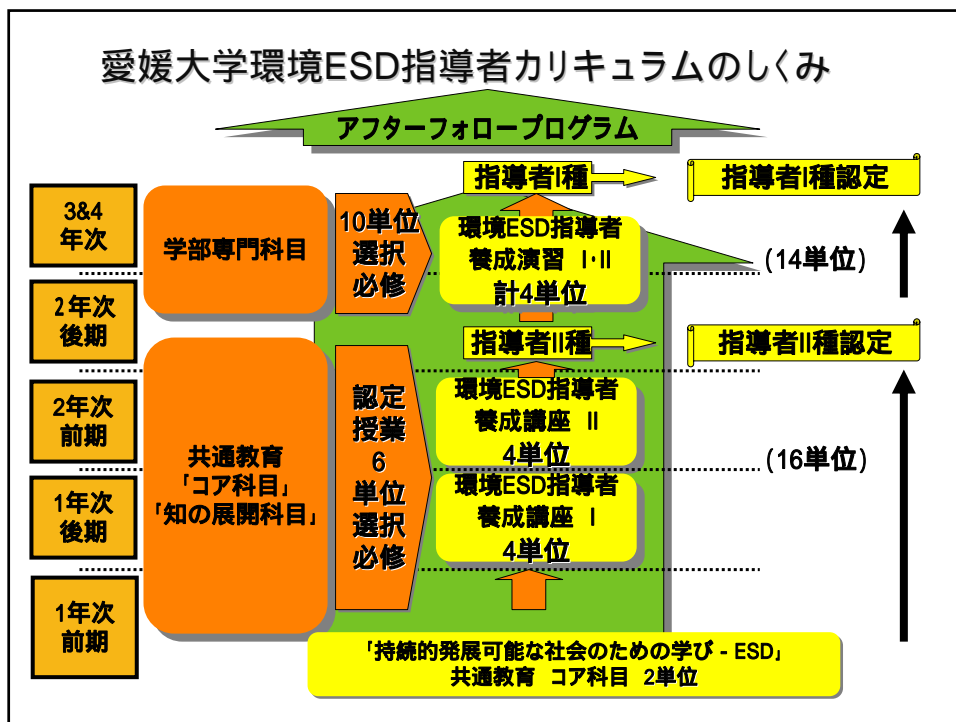
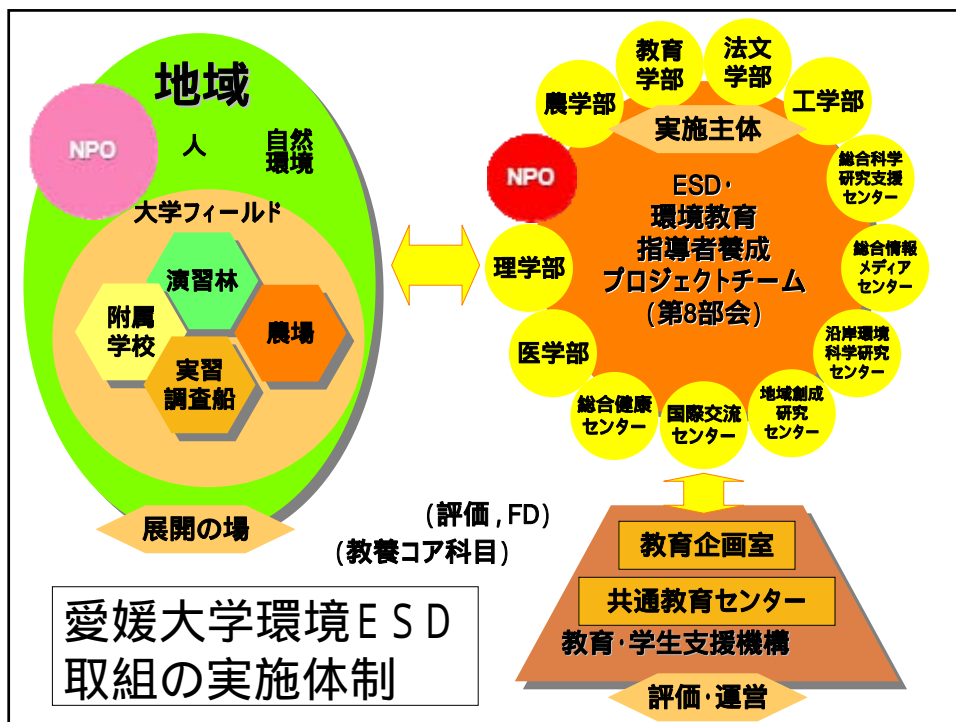
23



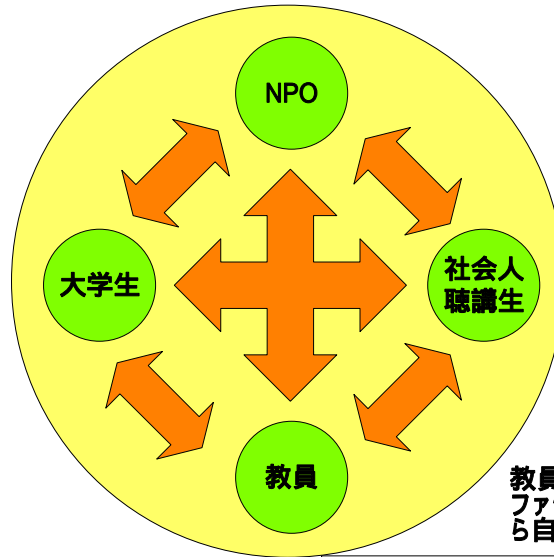
# NGOの現状6

24





授業はステークホルダーどうしの学びあいを大切にします



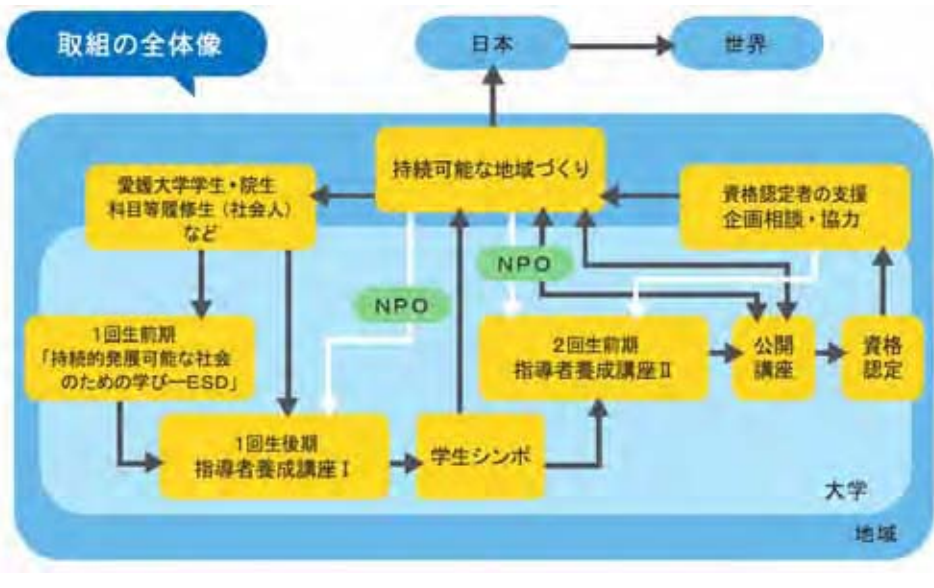
教員は学びあいを  
ファシリテートしながら  
自らも学ぶ

取組の学びの形態

## 取組の全体像

(年間予算約1,800万円)

(受講生数・・・ESD基礎 = 110名 80名弱、養成講座I = 66名、要請講座II = 33名)



## 身近な環境問題への取り組み

29

- 地域でできることのひとつ: 愛リバー・川掃除



お遍路道・大川沿いの道路は生活空間にある  
…私たちの暮らしを見つめることから始める

30



## 受講生のコメント

31

環境問題とは人間の価値観の問題で、考え方を改革しないと解決できないと強く思った。そのためには、各々の環境問題についての背景、社会構造、などをよく理解した上で、問題の本質をとらえることが重要、そのことを社会に伝えていく人々も必要だと思った。環境問題についての幅広い知識を得ると同時に、物事の本質を見抜く力を養えた。グループワークの進め方なども学ぶことができて、指導者(演出家?)として必要なことも学ぶことができた。また、グローバルな視点で環境問題を考えられるようになった。

一番印象に残ったのは貿易ゲーム。貿易のシステムをしっかり理解するのに有効な手段で、貿易によって世界に貧困がおこる理由、つまり先進国の経済向上のための戦略が分かりました。また、「地球への恩返し」で、みんなにとって何が重要か分り、みんなの意見を一致する難しさを知った。市場主義を採用している日本の企業は、“地球にやさしい”活動を名目上行なって、一般の人々に訴えかけるのに都合のよい題材を使っているが、その実態は現地のニーズに適していないなど持続可能でないことが分かった。物事の真理は、企業の発信しているものや、表面上の事情を丸のみにするのではなく、自分が探求してゆかなければならないと思った。

## 受講生のコメント

32

自分は世界各地の現状や地球の環境、日本の問題について知っていると思っていたが、実際は知っているつもりになっているだけだった。

また、自分の意見を言う場がたくさんあって、自分なりに考えて言うという事の難しさや、伝えるという事の大切さを学んだ。

グループワークは、初めの方は慣れなかったが、回を重ねるごとに他の人の意見が聞ける事の面白さに気がついた。さらに映像を見る機会がたくさんあり、授業の効果というのが高かった。

自分は工学部で、このような内容の授業はなかなか学べないので、とても貴重な体験をさせてもらった。自分の視野が広がった。

もっと日本の事や世界の事に興味を持って、自分なりに調べたり、イベントなどに参加して、大学生の時にしかできない経験をたくさんして、充実させていきたい。



## 課題の整理

33

1. **社会貢献活動・民間企業・ボランティアなどの参加・経験値は、人材雇用時の「評価対象」となっている。NPOの活動は「評価」されるが「認知」されていない現実。** (コピー代10円は払っても、人件費はタダといった考え方。)
2. **NPOの7,8割が総会を開催する程度の活動のみ、市民の主体性を重視するなら、2,3割の本物と言われるNPOを、地域の公共財産として育て、強化していく仕組みはできないか?** (データ:2005年静岡の調査参考)
3. **すべてのNPOに「教育力」があるわけではない。関心・可能性・力量があるかないかの見極めが必要。教育力があるNPOと大学の連携・しくみ、企業との連携をどう創るか?**
4. **「教育力」があるNPOとの「しくみづくり」に、資金的配慮の必要性があることを認められるかどうか? 基準・制度の導入が可能か?**
5. **国・県・市を超えた地域・教育機関を「フラット」につなぐNPOの役割をどう生かすか?** (関係性の再構築の必要性は?)
6. **各地域の中間支援組織・NPO支援センターのマッチング力・コーディネート力次第で、地域は変わる?** (自己分析・地域分析の必要性)

## 最後に...

34

ご静聴ありがとうございました。

NPO法人えひめグローバルネットワーク